



気づき、考え、実行する茂木っ子

もぎたて通信



令和5年6月9日 第8号

文責：校長 北村 和則

6月生活目標

校舎の中では静かに過ごそう。立ち止まって、あいさつをしよう。

大雨等に伴う学校の対応について

長崎県も梅雨に入り、じとじとと雨が続き、時には土砂降りになったりとしています。子どもたちも少なからず、体調面に影響が出ないかと心配しているところですよ。

先日、本校の「台風接近や大雨等に伴う学校の対応についてのガイドライン」を配布させていただきました。必ず、目の届くところ(冷蔵庫や掲示ボードなど)に貼っていただくようお願いいたします。また、裏面には、「避難指示で必ず避難」(R3. 5. 20から)を添付しておりますので、ご家族で再度確認をさせていただきます。

雨の日の送迎について

雨の日になると、子どもたちを送迎する保護者のみなさんの車がいっぱいになります。本校の前は道幅が狭く、傘をさして歩いている児童に危険を感じる場面も見られます。6年の通信にも載っていましたが「むごい教育」という話を聞かれたことがあるでしょうか。

徳川家康は、幼少の頃の名前を竹千代と言いました。竹千代は、人質として今川家に預けられていました。その今川家の11代の当主だった今川義元は、「竹千代にはむごい教育をしろ。」と家来に命じたそうです。それを聞いた家来たちは、竹千代に粗末な食事を与え、ほとんど休みなく武術を教え込んだそうです。しかし、これを聞いた今川義元は大変怒り、このように言ったそうです。「竹千代の身の回りのことは何から何まで世話をしなさい。眠いと言え、どこでも、どれだけでも眠らせよ。ほしがらる物はすべて与えよ。寒いと言え、あたたかい物をたくさん着せよ。学問が嫌いならばさせなくて良い。何事も好き勝手にさせよ。書物を読ませたり、剣術や馬の稽古などは一切させるな。」最後に今川義元はこのように付け加えたと言われている。「そのようにすれば、人間はだめになるから。」

現代の私たちの生活は、物が身の回りにあふれ、ほとんど不自由なく生活することができます。自分の生活に深く関わることで、身の回りに代わりにやってくれる人がいるので、それを自分でせず済むこともあります。暑さや寒さは感じて、室内にいればそれを感じることはありません。だだをこねてわがままを言ってみれば、それが通用することさえあるのではないのでしょうか。

雨の日の登校について、保護者のみなさんにも考えてほしいと思います。「雨に濡れてかわいそう。」はたして、子どもの本当の成長につながるのでしょうか。

要保管

長崎市立茂木小学校

台風接近や大雨等に伴う学校の対応についてのガイドライン

